



文月 探究と協同の学びへ

校長 近藤 章宏

夏本番も近づいてまいりました。6月にPTAのボランティアの皆様により植えていただいた、マリーゴールドが、しっかりと根付き、ぐんぐん伸びています。黄色やオレンジの花が色鮮やかに咲きほこり、季節の移ろいを感じさせています。



6月に入って、1学期の授業訪問を行っています。授業訪問とは校長と教頭が全教員の授業を各一時間ずつ通して参観するものです。

本校では令和5年度から昨年度までの3年間、共同的な学びである「学びの共同体」という形態での授業を取り入れてまいりました。そして本年度からさらに継続して、3年間の**研究のテーマを「探究と協同の学びへ」**として引き続き授業改善を進めております。授業参観する中で感じた生徒達の様子を幾つか伝えてまいります。

まず、どの学年にも言えることですが、生徒達の学習に向かう姿勢はとても良いものを感じます。授業前には全員の生徒が次の授業の準備がしっかりとでき、授業の始まりからとても集中できています。学びの共同体の授業づくりは基本的に4人グループで向かい合わせに座ります。学年が上がるに連れて学びあいに慣れていきますので、3年生が一番聴きあい、学びあう際の進め方や声量がとても学習に適した状態になっています。



「学びの共同体」による学習形態は生徒の視点からは一人残らず学ぶ権利を保障し、誰もが学びの主人公になれる質の高い学びを目指しているものです。グループによる学習活動は時として「理解している人が周りの友達に教えるだけ」という構図や、「つまずいた生徒が教えられるのを待つ」状況が見られることもあります。本校の取組はそうではなく、「**教えあいではなく、聴きあい**」であり、「**分からないことを主体的に周りに聴く**」ことを目指しています。そのためには協同的な学びの前段階に、自力解決の時間が不可欠になります。自分で取り組んでみて、分かったことや考えたことを伝えることができる喜びを味わわせ、事前に学習してちょっと



難しいなと思ったら、仲間たちから主体的に説明を聴き理解を深めようとする態度を培っていきます。

生徒達の中では他者と協同して学びあうことで自らの学びを深めていこうとする姿勢が身についてきていることから、例えば英語の授業などペアでスモールトークを繰り返す場面などでも、恥ずかしがることなく意欲的に、クラスの様々な生徒と交流している様子が見られます。またトライ&エラーを重ねながら学ぶことができるような支持的な学習環境を構築することができています。



一方で「学びの共同体」の教師としての取組としては、①授業の構成として、前半は教科書レベルの共有の課題を進め、後半は少し発展的な内容・問題で進めるよう取り組んでいます。又、②授業の進め方は講義調の一方的な解説ではなく、生徒が自力で解決できるようにするための最小限の解説をした上で、生徒が学習を進めていけるよう様々な考えを進めていけるよう「足場かけ」をしています。生徒の発想やつぶやきを「**聴く、つなぐ、もどす**」ことを意識した取組になります。③進めていく視点では、専門家としての成長を実現するため、積極的に授業を公開し、同僚の授業を見ることで教師間の専門性・同僚性の向上を目指しています。本年度も6月22日に一回目の公開授業研究会を東京大学名誉教授の佐藤学先生をお招きして実施しました。

また、ICTの活用に関しては「ロイロノート」という、クラウド型授業支援アプリケーションを活用した授業づくりを進めています。事前に教員が作成した教材を生徒一人一人のタブレット端末に送信したり、考え方をカード式にリレーションして可視化したりします。また回答を生徒同士で共有したり、参考になる他の生徒の考え方を教員が選んで、提示したりすることもできます。



本校の生徒たちが夏に咲き誇るマリーゴールドのように成長していけるよう授業改善を図り、生徒一人一人が伸びていく学校を目指してまいります。保護者、地域の皆様方も本校の子供たち、そして時には教職員にも声をかけていただければ幸いです。